

---

 雜 錄
 

---

**ウラル州及バシキール共和國事情の内工業の部** (2月24日附在オデッサ帝國講事島田滋報告)

ウラル州に於て工業に従事する人口は、農民に比し 1/8 に足らざるも、工業製産品の價値は農産品に劣らず。實にウラル州はソヴイェト聯邦中工業の發達せる地方として名あり。

ウラル工業の歴史 ウラル鑛業地としては極めて古く、既に15世紀に於て鹽の採取行はれ、17世紀の上半に於て最初の冶金製造所たるニーチンスキー、及ツイスコルスキーの2工場顯はれたり。2工場は經營長からざりしが、17世紀の末葉ペョートル大帝時代に於て、カーメンスキー及ネウイヤンスキーの工場建設せられたりネウイヤンスキー工場はツーラの商人ニキータデミードフの手に移り。鑄鐵及各種金屬製品を製造することになりたるが、同人及其子孫により結局ウラルに於て30箇所の製造工場を開設するに至れり。當初の使用労働者は囚徒、破教者。逃亡農民等なりき。

18世紀に於ては政府の方針屢變化し、或は工業を國有とし或は之を個人に許したることあり。1719年には一旦工業の自由を認め、次で又之を取消す等種々曲折を経たるが、要するにウラル鑛業の次第に發展して、18世紀の末には16萬5,000噸の鐵を出せり。而して此内6萬5,000噸は海外に輸出せられたり。

19世紀の前半に於て鑄鐵の製造高は23萬噸に増加したるが農奴の解放と共に自由を得たる労働者は多數去りて西部西伯利の農民となり、爲に鑛業は或は休業し、或は縮小せられたるが、經營者側も次第に新事態に馴れ來り。追次回復して、1810年代に於ては鑄鐵37萬噸を得るに至れり。次で戦争に於ては90萬噸に達せり。

1880年代に於ては、南露に於て冶金業勃興を見るに至れり。南露の冶金業は僅に10年間にウラル鑛業を凌ぎ、次で著しく之を超へ、1893年に於てはウラルは鑄鐵1割9分5厘を出したるに、南露は6割7分1厘を出すに至れり。

南露優勢なる附近にコークス用石炭の豊富なるに在り。然るにウラルは木炭に依る。而して木炭は年と共に其入手困難となるを以て、到底競争する能はざるなり。即ち南露一工場の鑄鐵平均製造高は16萬5,000噸なるに、ウラルに於ては1萬2,000噸に過ぎず。

ウラルに於ける外國資本 今世紀に入りては外國資本ウラル鑛業に投ぜらるゝに至り、國有處分を行ひたる際には、外國資本は1億2,650萬留に達し居たり。其の内半額以上は英國資本にして亞ぐを佛國資本次で白耳義、獨逸等となす。其の投資の目的は製鐵を主として、之に次ぐを銅及金となす。是等は殆んど 4/5 外國資本の手に在りたり。外國資本の投資を見ると共に、ウラル鑛業は次第に活氣を

呈し來り、工場に大なる改善を加へ、新式製造所を増加し、大に設備を改良せり。

今國有處分を爲せる當時に於ける外國投資額を示せば次の如し。

(單位千留)	英	佛	白	獨	伊	計	
						千留	%
冶金、製鐵業	13,000.0	14,862.5	2,950.3	14,000.0	—	44,812.8	35.4
銅工業	28,000.0	—	—	—	—	28,000.0	22.1
金工業	18,730.0	4,500.0	3,562.5	—	—	26,792.5	21.2
白金工業	—	6,806.6	2,500.0	—	—	9,306.7	7.4
製材所	6,000.0	3,000.0	—	—	—	9,000.0	7.1
化學工業	—	—	7,513.1	—	—	7,513.1	6.0
石綿工業	—	—	—	—	562.5	562.5	0.4
イズムルド採取	478.7	—	—	—	—	478.7	0.4
計	66,208.7	29,169.1	16,525.9	14,000.0	562.5	125,466.2	100.0
百分率	52.1	23.1	13.0	11.0	0.4	100.0	—

戦前ウラルは世界白金産額の9割5分の白金を出せり。佛、伯、白金採取會社は半分以上の白金を採取したる外、更に契約に基き、他の企業より白金を買入れ居たるにより、同會社は事實上白金を獨占し居たる次第なり。世界に於て有名なるイズムールド含有砂は、スウェルドロフスキー管区内に存在せる所、全部英國イズムールド新會社の中に在りたり。ウラル銅の5割6分9厘は3英國企業之を採掘せり。

ウラル工業の種類 ウラル工業の總生産高を1923—24年度の調査に依り種類別に示せば下の如し。

	千留	%		千留	%
冶金工業、及金屬製造業	81,939.1	46.6	鐵道附屬工場	5,972.8	3.0
鑛業	29,447.2	16.7	鑛物仕上工業	4,230.1	2.4
食料品製造業	13,683.6	7.8	製紙業	3,161.9	1.8
木材仕上工業	11,402.6	6.5	發電所及水道	2,080.2	1.2
織物工業	7,462.8	4.2	複寫器製造業	2,067.1	1.2
皮革工業	7,259.1	4.1	衣服及履物製造	1,436.5	0.8
化學工業	6,434.6	3.7	計	175,977.6	100.0

即ち鑄鐵及鋼鐵の製造が最主要なる工業たり。

而して地方別にする時はスウェルドロフスキト・タギーリスキー二管區は全ウラル工業製品の各1/4を産す。次にペルムスキー・ズラトウストフスキー及ウエルフネカムスキーの三管區も工業地帯たり。即ち地理的に云へばウラル山脈に沿ひ西方より接近し來れる地帯を以て工業地域となす。

企業の種類 1924年4月1日の調査に基き、企業の大小を見るに左の如し。

労働者	企業の數	労働者の數	労働者	企業の數	労働者の數
15人以下のもの	127	1,201	201—500人のもの	61	19,334
16—30人のもの	83	1,878	501—1,000人のもの	35	25,509
31—50人のもの	68	2,586	1,000人以上のもの	26	50,429
51—100人のもの	67	5,010	計	517	112,997
101—200人のもの	49	7,040			

次にウラル企業の所屬を示せば左の如し。

		企業數	労働者數			企業數	労働者數
國	營	419	110,940	私	營	39	656
	コオペレーション經營	58	1,402	計		516	112,997

以下企業別に分ちて説述すべし。

鐵鑛業 ウラルに於ける鐵鑛は主として磁鐵石及沼鐵として存在す、磁鐵石は主としてウラル山脈の東坂に存し塊又は層をなして堆積し居り、其の堆積の最大なるものは有名なるフラゴダーチ山ウイソーカヤ山、マグニトナヤ山等となす。フラゴダーチ山は、タギーリスキー管區クシウインスキー製鐵所の附近に存し、埋藏量は1億噸と稱せらる。鑛石の含鐵量は55乃至59%とす。

ウイソーカヤ山は同様タギーリスキー區にあり。ニジネ・タギーリスキー製鐵所の附近に存す。其埋藏量5,000萬噸含鐵量65%。本山に於ては鑛石の質良好なる爲、フラゴダーチ山に比し採掘盛に行はれたり。

マグニトナヤ山はトロイツキー區に存し、數個の山の集團たり。總計埋藏量1億4,800萬噸にして1/3は含鐵量少き鑛石より成るも、其代り他の部分に於ける含鐵量は60乃至65%なりと謂ふ。

其他磁鐵石所在地としてはウラル工業地帯の極北に存在する鑛區となす。但し此等は既に採掘し盡したりと認むべし。

沼鐵所在地も亦散在し居れるが最盛に採掘せらるゝは、有名なるバカリスコエ鑛區となす。ズラトウストフスキー管區内に存し、鑛石は石灰石の間に厚さ4米乃至10米の層をなして存在す。バカリスコエ鑛區の埋藏量は4,100萬噸と見積らる。此地に於ける沼鐵は其質良好なりとて世界に知らる。此鑛石を木炭と共にする時は最良質の鉄鐵を得べし。ウラル鑛鐵及鐵の好評を博したるはバカールの鑛石によるものとなす。

其他の沼鐵産地としてはザガジンスコ・カターロフスク鑛區となす。本鑛區はバシキール共和國內にあり、その埋藏量1,640萬噸と稱せらる。戦前年額3萬噸を産せるも、現在は休業中なり。

最大なりとせらるゝはタギーリスキー管區内に存するアラパエフスコエ鑛區となす。其埋藏量約1億噸とせらる。採掘に便なる場所にあるを以て、將來頗る有望なり。但調査不充分なり。

アラパーエフ鑛區と似居る鑛區はシャードリンスキー管區のシナルスコエ及カーメンスコエの兩鑛區とす。此2鑛區亦調査不充分なり。

斯くてウラルに於ける鐵鑛埋藏量は5億噸に達す。即ち全ソヴィエト聯邦の鐵鑛埋藏量の2割乃至2割5分に該當す。

ウラルの鐵鑛は直に表面より採取し得べく、地下の作業は稀に行はれ且其深さも少し、尙機械的設備極めて少し。

今鑛石の採掘量を見るに左の如し。

	千比	%		千比	%
1913年	1,825.0	100.0	1923—24年度	462.5	25.0
1921—22年度	62.3	3.4	1924—25年度	725.0	40.0
1622—23年度	191.8	10.5			

満俺鑛(マンガンネツツ) 満俺は鋼鐵を製造する際必要なるものなり。満俺鑛の最豊富なるはバシキール共和國內に在り。ウラル州に於てはボルノチノエ及マルシャトスコエ(タギリスキー管區の北部) 並サパリスコエ、(タギリスキー管區の南部) の諸鑛區となす。ウラルに於ける満俺鑛の埋藏量は350萬噸とせらる。(在ウクライナ・ニコヴリスコエ 満俺鑛は5,000萬噸、在ジャウルジャ、チアツールスコエは1億1,000萬噸を埋藏す)。ウラルに満俺の存在するは鋼鐵業の發達に頗る便なり。

金屬製造業 ウラルの金屬製造業は革命戰亂に依りて衰へ居りたるが、其後急速復興しつゝあり。南露の金屬製造業は主として大なる國營工場鐵道及軍需の需要を充たし居る所、ウラルは凡て市場に必要な物品を製造し、其木炭に依る製造と品質本來良好なるとにより得たる鑄鐵は廣く他の地方の金屬製造業よりも歓迎せられ居れり。今ウラル金屬製造業の製品を見るに下の如し。

	1913年	1923—24年	1923年に對する%	1924—25年	1913年に對する%
鑄 鐵	千噸 902.5	千噸 250.7	27.8	千噸 341.2	37.8
マルテノフスキス金屬條	835.9	309.0	37.0	487.7	53.3
鐵 條	150.5	50.1	33.3	33.3	53.3
線 (叩きたる)	17.5	25.9	147.9	38.5	221.2
線(引延ばしたる)	18.6	13.2	70.9	13.2	71.1
軌 條	123.7	30.9	24.2	59.0	45.9
屋 根 鐵	233.9	85.6	36.3	149.2	56.3
亞鉛鐵板	16.2	4.1	25.6	11.5	70.8
鐵板及鋼鐵板	40.0	5.2	13.0	7.3	18.3
白 葉 鐵	9.2	4.2	45.8	12.3	134.9
釘	10.9	7.4	67.3	8.4	7.5
亞鉛塗食器錫カケ食器	2.6	3.0	115.2	9.3	352.8

ウラル金屬製造業は合同してトラスト又はオクルーグ(管區)と稱し、次記8合同の外、パウロフスキー、アルチンスキー兩製造所を合せてウラル鑛業シンジケート、即ち略してウラルメトと稱せらる。

合同の名稱	鑄鐵製造能力の割合1913年の調査	屋根鐵製造能力の割合1913年の調査
ナデージジンスキー・コンビナート	22.4	7.0
スウエルドロフスキー・トレスト	18.4	29.2
タギリスキー・オクルグ	16.6	4.3
ユージノ・ウラリスキー・トレスト	16.2	8.2
ベルムスキー・トレスト	13.0	14.0
アラバエフスキー・オクルグ	7.0	11.3
シムスキー・オクルグ	6.4	1.7

ブリカムスキー・オクニガ  
計

—  
100.0

24.3  
100.0

石炭工業 ウラル州には石炭少し。最大なる産炭地はキゼロフスキー地方なるが幾多の炭坑より成り、ウエルフネ、カムスキー及ペルムスキーの管區に於て 160 キロメートルに亘る狭き層より成る。其主なる炭坑を北より南に向ひて掲ぐれば、ルニエフスキエ、キゼロフスキエ、ポロウインキンスカヤ、グバヒンスキエ、ウシウインスカヤ及バスカヤとし、其の南方には價値少き炭坑あり、埋藏量は石炭 3 億 2,800 萬噸となす。

キゼロフスキエ地方に於ては 2 枚乃至 5 枚の炭層にして、總厚 8 米なり。火力は 5,000 乃至 5,750 カロリーに達し炭質は乾燥し居り火焰長し。1 部は固凝するも、コークスを得ること少し、且輸送に適せず、キゼロフスキエ炭は最良炭となす、又産額最多量なり。ルニエフスキエ炭坑の外、他は全部電氣事業あり。

ウラルの東坂には無煙炭及褐炭坑を有す。無煙炭坑として有名なるはエゴルシンスコエ炭田となすスウエルドロフスキー管區内イルピトスキー管區との境界に存し、主なる炭田をポプロフスカヤ、ブルスレスカヤ及クリエチエフスカヤとし、ワリュチエクスカヤ、炭は品質最良なり。

採炭は淺きシャフトによりて行はる。火力 7,890 カロリー。エゴルシンスキー無煙炭の缺點は粉炭多きこと、塊炭が紅熱煖爐に於て粉末に崩るゝこと及燃滓の可溶性鈍きこと等なり。故に木炭は特別製の火爐に使用するか又は石炭に 2 割 5 分の混合物として使用するに適す。エゴルシンスキー炭田の埋藏量は 4,900 萬噸とせらる。

其他無煙炭田としてはトロイツコ・オマスカヤ鐵道沿線にあり。其内主なるものをポルタフスコエ及ブレデレスコエとなす。炭質は火力強く、良好なり。埋藏量は 7,000 萬噸以上とせらる。

ボゴスロフスコエ褐炭田はタギーノスコエ管區にあり、三層より成り、埋藏量 8,200 萬噸、火力約 5,500 カロリー、採炭の際は濕氣あり。乾燥すると共に粉となる。本炭田はナデージジンスキーカ・ピネツトの需要を充し居るのみ。

最豊富なる褐炭田はチェリヤピンスコエ炭田とし。埋藏量 4 億 1,800 萬噸とせらる。露天掘りにて第一層を採取す。火力高くして 6,200 カロリー、但燃滓の量 2 割 5 分乃至 3 割に達す。

以上を以てウラル州に於ける炭田の概要となす、其埋藏量總計 9 億 5,000 萬噸なり。次に毎年の採炭量を示さん。

	キゼロフ フスキエ 千噸	ボゴスロ フスキエ 千噸	チャリヤピ ンスキエ 千噸	エゴルシ ンスキエ 千噸	計 千噸
1913 年	881	185	132	2.6	1,200
1921—22年	411	157	383	58	1,009
1922—23年	546	200	353	56	1,155
1923—24年	584	208	192	47	1,031
1924—25年	660	280	200	60	1,200

全體に對する割合%      55.0      23.3      17.7      5.0      100.0

石炭の原價下の如し (1噸に付)

	1923-24年度	1924-25年度
キゼロフスキエ炭田	留哥 8.13.5	留哥 6.40.5
ホゴスロフスキエ炭田	5.12.4	3.20.3
チュリヤピンスキエ炭田	7.01.5	4.81.9
エゴルシンスキエ炭田	11.46.8	6.10.0

泥炭業 ウラル州中人口多き地方に於て、泥炭沼244箇、面積 1,000 km<sup>2</sup> を超え空氣乾燥泥炭1億6,600萬噸を埋藏すとせらる。採掘中なるは65箇所主としてズラトウストフスキー及スウエルドロフスキー兩管區に於て行はる。最大なるはペロレツキー工場附近の採掘なりとす。1923-24年度の採掘量7萬2,347噸なりき。

銅鑛業 鐵鑛業に亞ぐを銅鑛業となす。銅は電氣附屬品、銅貨、造船、機關車、化學工業等に廣く用途あり。ウラルには銅産地多し、主なるもの下の如し。

銅埋藏見込 (千噸)		銅埋藏見込 (千噸)	
ホゴメロフスカヤ・グルツパ	587.0	ブイシユミンスカヤ・グリ	17.1
ザエクチャリンスカヤ	426.0	ユチエフスカヤ	16.0
クイシユツイムスカヤ	150.0	タナルイクー・バイマクスカ	4.4
カラーチンスカヤ	135.0	ヤツウリインスカヤ	35.5
ダギーリスカヤ	51.0	其他 (ブラゴダートヌイ ジュゼリスキー諸坑 グメシエフスキー)	1,425.0
		總計	

銅産地は主としてウラル山脈の東坂に存す。ウラル銅鑛の特色は第一含銅量の多なること、現にカラーチンスカヤ、グルツパのカルプーシンスキー銅坑及ダギーリスカヤグルツパのサンドナトスキー銅坑の銅鑛は銅 8.4% を包含す。第二他の金屬をも大に包有し居ること。即ち金銀を多量に含むこと其一なり、殊にサンドナトスキー銅坑及總じてダギーリスカヤ、グルツパは全般に亘り有名なり。即ち埋藏銅鑛の中に包含せらるゝ金は372噸及銀1,883噸にして、價額5億留を超ゆ、(ウラル銅鑛の埋藏總量は、6,200萬噸とせらる)。次に亞鉛を包含すカルプーシンスキー銅坑の如きは亞鉛包含5.6%に達す(亞鉛はカフカズにも亦アルタイ地方にも存するも、アルタイ地方の分は經營に莫大の失費を要す)外ブラゴダートヌイ銅坑及其他に於ては多量の鉛を包含す。

銅は露國にありてはカフカズ、キルギズカヤ共和國及アルタイ地方に於て産するも、其埋藏量何れも少く、隨て現今ウラルは露國にとつて唯一の産銅地となす。ウラルに於ける銅の最高産出は1921年にして、17,537噸なりき。

現今ウラルの銅鑛業は全部國營にして、ウラルメーヂなるトラストを組織す。1923-24年度銅鑛採掘高は10萬噸にして、銅2,900噸を製造したり。

ウラルメーヂは銅鑛の外、ニーヂネ・クイシユツイムスキー電氣分解工場、カラーチンスキー製銅所(ネウイヤンスク附近)、露國最大のカラバシンスキー製鋼所(クイシユツイム)、ブイシユミンスコ・ク

リュチエフスキ製銅所其他を合同し居れり。

ウラル銅鑛の一部ジエクチャリンスキエは外國商會レナ・ゴールドフィールドにコンセツションとして附與せられ居れり。

採金業 ウラル州には金鑛と砂金坑とあり、金鑛の主なるものはミアスコエ（ズラトウストフスキ管區）ベリヨゾフスコエ及プイシユミンスコエ（兩者スヴェルドロフスキー管區）並コチカルスコエ（トロイツキー管區）等となす。金鑛の金包含量1匁に付25乃至30「グラム」時としては其以上に達す。砂金坑の主なるものはボゴスロフスコエ、ネイウインスコエ、スイセルトスコエ、ウルスフ、イセトスコエ、等となす。金包含量は1匁に付1グラム又は其以下なり。砂金坑の多くは白金を多量に包含す。

現今ウラルに於ける採金は戦前に比し衰へ居る、1923—24年度に於て1.4匁即ち1913年の13%に過ぎず。主なる金坑は合同せられてウラル金鑛トラストとなり居るが、其合同に係る地方次の如し。

ベリヨゾフスキー金鑛區 アヤトスコ・シヤイツウリンスキー	} スヴェルドロフスキー管區内に在り
ミアスキー金鑛區 コチカルスキー グムベイスキー	
	} トロイツキー管區内あり。
同 同	

其他バシキルスカヤ共和國內にタナルイク、バイマクススコエ鑛區、カザクスカヤ共和國內にジエツイガリンスコ、アイダルスコエ鑛區あり

尙銅鑛の中に混合金屬として金のあることは既述の通り。

白金鑛業 ウラルは白金産地として世界一なり、戦前世界白金産額の90%以上を産出し居たり、ウラルに於ける白金産地は主としてタギーリスキー管區に集中し居り、ツーラ、イス、ウイヤ、ニヤシマ、シヤイタンカ、マルチャンタギーリ等の諸川に沿ひて存在し、内最豊富なるはイス鑛區とす。白金鑛區の多くは同時に相當多くの金を包含す。

ウラルに於ける白金の採取は1824年に始まり、100年間に白金400匁を採取したり。前戦は1年に5匁を出したるが、國內の使用量は少く殆ど全部海外へ輸出せられ白金製造品となり再び歸來せしものなり。白金の原鑛は種々の混合金屬を包含するを以て、是非之を精製するを要し、現今スヴェルドロフスクには白金精製所あり。總じてウラルに於ける白金採取の方法は、金の採取に比して完備し居り現今ドレツチャーを使用して廣く採取に従事しつゝあり、其量戦前の1/3に過ぎずして、年額約1.8匁なり現今ウラル白金鑛業は、全部合同して、トラストを組織し、ウラルプラチナと稱し、イソフスキー、タギーリスキー、ネイウインスキー、クイトルイモ、コシウインスキー、ザオゼルスキー及スンセルトスキーの白金鑛區を合同し居れり。

石綿鑛業 ウラルに於ける最大の石綿産地はバジエノフスコエ（スヴェルドロフスクの東方）にして、其埋藏量の多なる點に於て世界に有名なり。其他アラパーエフスコ、クルマノフスコ及ネウイヤンスコエも主なる産地となす。産地全體の石綿埋藏量は663萬匁、内調査済の分233萬匁なり。而して

右の内 2/3 はバジェノフスコエの埋藏に係る。

石綿はイルクツク縣及土耳其斯坦に存するも調査未了、採掘し居らず。故にウラルは從來露國に於ける唯一の産地なり。

ウラルに於ては石綿は露天に於て直接地表より採取せられ、地下作業を要せず。又作業は4月乃至7月に限る、地上より得たる石綿は之を分類して精製す。ウラルに精製所8箇所あり、又石綿原紙製造所1、石綿各種製品製造所1あり。

現今採取の行はるゝはバジェフスコエ及アルパエフスコエ二鑛區なるが、バジェノフスコエ鑛區の石綿産地は合同してトラスト・ウラルアスベストを組織し、アラパエフスキエ鑛區は米國人にコンセッションとして附與せられ居れり、1923—24年度精製石綿の量8,000噸にして、即戦前の1/3 又外に石綿厚紙62噸各種石綿製品33噸を製造せり。

鑛物の利用 耐火煉瓦、普通煉瓦、陶磁器、玻璃、セメント等の製造は1923—24年度に於て其價額ウラル工業の2.4%を占むるに過ぎず。アルミニウムはジュラウリヒンスコエ鑛區（チュソワヤ驛附近）に於て産す。ズラトウストフスキー管區内のカルカンスコエ及サトキンスコエに於てはマグネシウムを産す。種々の石材就中大理石をも産す。然れども從來は交通の關係、投資の關係上、此等富源の利用意の如くならず。1923—24年度の製造高下の如し。

石 灰 石	72,203噸	白石(天然のもの)	350對
白 粘 土	24,943	同 (人造のもの)	416〃
各 種 砂	14,197	砥 石(丸形)	3,000箇
硅 石	14,116	食 器	374,000
マ グ ネ ジ ャ ッ ト	31,364	電 氣 附 屬 品	56,000
白 雲 石	5,893	玻璃製食器及藥局用器	2,217
生 石 灰	6,827	其他の玻璃製品	98,000
雪 花 石 膏	963	窓 用 玻 璃	7,000箱
耐 火 煉 瓦	37,277	セ ン ト	46,000樽

**和蘭政府製鐵業に對する補助金** 今回和蘭ロッテルダム港に一大鐵橋を建設するに當り獨逸合同製鋼會社も入札に参加し而も最低値に入札した、然るに D. H. D. 紙の探知する所に依れば右競争入札はロッテルダム市役所の決議に基き最低値の該合同製鋼會社に落札せずして和蘭ウエルスプーア會社（和蘭自國産鐵を入札したる）に落札せしむる事になつた該地より通信によればそは和蘭政府が該合同製鋼會社の見積値段と和蘭側最低見積價格（ウエルスプーア會社入札）との開きを政府より補償することを申出でたるが爲めロッテルダム市役所としては斯く決議する外なかりしに依るものである。（鋼鐵協會）

**鐵鑛輸出希望** (5月13日附在ケープタウン今井領事報告) 左記の者鐵鑛石の日本輸出を希望し居り。紹介方申出あり、尙鐵鑛石は約50萬噸の埋藏量を豫期し居り、本邦よりの需要あるに於ては、デラゴア灣甲板渡にて、毎月5,000噸以上3萬噸の積出を爲し得る豫定なりと云ふ。



希望者氏名 Philip C. H. Glover, 18, Marais Court, Commission Street, Johaunesburg.

(追て右鐵鑛石の分析表等一覽の希望者は商工省に就て承合せられ度)

**印度滿俺鑛狀況** (5月5日附在カルカッタ朝岡總領事報告) 産地及産額 印度に於ける滿俺鑛の産地は主として中央州、マドラス省、孟買省、マイソール、ビハール・オリツサ及中央印度にして年産額大  
約80萬噸に達す、其地方別年産額の概算下の如し。

中央州	約53萬噸	マイソール	約3萬噸
孟買省	5-6萬噸	ビハール・オリツサ	2萬噸見當
マドラス省	約6萬噸		

(年度に依りて其産額増減す。)

而して印度内に於ける年消費額は大約20萬噸に及ぶと稱せらる。

主要なる輸出先下の如し。(單位噸)

年 度	自1923年4月 至1924年3月	自1924年4月 至1925年3月	自1925年4月 至1926年3月
輸 出 先			
英 本 國	303,921	194,671	155,178
其 他 の 英 領	—	10	—
獨 逸	12,000	6,050	30,418
和 蘭	12,200	—	3,010
白 耳 義	136,998	203,247	168,621
佛 蘭 西	170,532	147,000	138,375
伊 太 利	14,079	13,482	11,925
マスカット・テリトリー及 ツルシヤアル・オマン	—	2,152	—
日 本	1,438	250	—
埃 及	750	—	—
北米合衆國	96,845	72,348	56,698

尙其輸出地方別下の如し。

ペンゴール	331,290	326,399	269,584
孟 買	347,723	277,009	279,340
マ ド ラ ス	22,750	35,802	15,301
合 計	751,763	639,210	564,225

即ち輸出先の主なるものは英、佛、白にして、輸出港はカルカッタ、孟買、マルマガオ及ヴィザガパタムとす。

印度滿俺の品位、價格及本邦への運賃 ヴィザガパタム方面及中央州産品は40%以上の滿俺を含有し、一等品と稱せらるゝものに於ては、其滿俺含有量は世界に比類なしと云ふ。即ち優良鑛の組成成分の如し。

滿 俺	50.49%	磷	0.36%
鐵 分	6.26	水 分	0.72
珪 酸	5.67		

又2,3等品に於ては上に比し多量の鐵及燐を含有するも、珪酸及水分の含有量は概して少しと云ふ。一般に印度産滿俺は其質堅く、容易に紛碎せず、露國及伯刺西爾產品との混用に適すと稱せらる。

本鑛の價格は滿俺含有量に依り異る、本邦向普通品たる46—48%物に於ては F. O. B. Calcukta 1噸に付 32.8 留比安乃至35留比なり。

本邦への運賃は協定社船運賃に於て噸 12.8 留比安なり、但し1割のリベートあり。

**エナメル鐵器需要狀況** (黒河) (6月8日附在黒河下村出張所主任報告) 當地方に於て需要せらるるエナメル鐵器は全部日本品で、需要年額は大洋4.5—600元(最近3年間當地海關の輸入統計に依る平均年額は大洋4,594元)なるが内大阪の伊藤エナメル器製造會社の製品(商標片手に焼木)最多く、以下大阪の宮崎商店(商標スワン)及共和瑤瑯器製造會社の製品(商標握手)之に次ぐ。今賣行最多なるエナメル鐵器より順次説明すれば次の通り。

洗面器 伊藤及共和の製品大部分で、宮崎の製品は極少く、形大は直徑26, 28, 30, 32, 34, 36, 38 纏、價格は1打順次大洋4.7元、5元、5.5元、6元、6.5元、7元、7.5元なるが、内賣行良好なるは34, 36 纏大のものである。

湯呑 宮崎の製品大部分で形大は8, 9, 10纏、價格は1打夫々大洋1.9元、2.2元、2.4元なるが、内賣行良好なるは8, 9纏の兩種で、洗面器に次ぎ、賣行最多く、又皿と共に對露輸出向きであるが、本品に對しては、特に塗方粗惡にして剥げ易しとの批評難あるを以て、此の點留意の必要あり。

皿 湯呑同様宮崎の製品大部分で、形大は16, 18, 20, 22, 24纏、價格は1打大洋1.5元、1.6元、1.7元、1.8元、1.9元と順次一角高なるが、賣行は形大に區別無く略同様である。

湯沸 伊藤の製品は底廣く丈低し、S.O. 印は底狭く丈高し、形大は何れも16, 18, 20 纏の3種類、價格は夫々1個前者は大洋1.25元、2.35元、1.5元、後者は1.8元、2.2元、2.5元なるが、伊藤製品はS.O. 印に比し遙に賣行良好である。

鍋 伊藤の製品大部分で、間々鶏印あるも極く少量、形大は16, 18, 20纏、(一組大洋2.8元) 22, 24, 26纏(同上6.5元) 28, 30, 32纏(同上12元)とあり、内賣行良好なるは16, 18, 20纏大の組であるが、一般には持柄付より下柄の方歡迎せらる。

唾壺及便器 前者は伊藤の製品にして、1個大洋2.5元、後者は大阪の光耀洋行製品にして、形大は18, 20, 22, 24, 26纏價格は1個夫々大洋0.6元、1元、1.2元、1.4元、1.6元とあり、内22, 24纏大のもの歡迎せらるゝとは云へ、需要僅少計上するに足らず。

主要取引店 福來順(興隆街)、寶順成(同)、日昇福(南大街)、德源興(興隆街)、裕泰東(同)、新義隆(中原街)、同合利(迎恩路)、合順公(南大街)

**世界に於ける電氣鋼產出高** F. Cone (Iron Age Jun 2. 1927) 歐洲大戰後世界に於ける電氣鋼の產出額は非常に増加したが其中最も著しきは北米合衆國と伊太利である次に其統計を示さう。

第一表 電氣鋼生産高(鋼塊及鋼鑄物)

	1925	1924	1923	1922	1918	1913
北米合衆國	615,512	432,526	515,872	346,039	511,364	30,180
獨逸	125,000	80,000	79,188	105,044	240,037	88,881
英國	64,100	64,500	64,200	39,400	115,448	—
カナダ	9,843	6,163	8,932	12,005	119,130	449
フランス	75,433	65,639	47,638	41,434	58,222	21,124
伊太利	155,000	142,553	176,611	117,810	46,878	—
スウェーデン	42,588	37,552	17,695	17,234	13,089	2,276
ベルギー	8,000	7,870	8,110	930	—	—
日本	14,000	11,985	6,292	4,531	4,329	—
オーストリア	—	—	—	—	—	—
ハンガリー	—	—	—	—	41,163	26,837
計	1,109,476	848,788	924,533	684,427	1,149,660	169,747

第二表 北米合衆國に於ける電氣鋼産出高

	全電氣鋼	全電氣鋼鑄物	全電氣合金鋼	全電氣合金鋼鑄物
1913.....	30,180	9,207	—	443
1916.....	168,918	42,870	71,129	926
1918.....	511,364	108,296	290,961	3,076
1920.....	502,152	155,196	245,572	11,710
1921.....	169,499	85,095	63,216	10,084
1922.....	346,039	154,982	125,419	17,760
1923.....	515,872	235,958	194,976	23,054
1924.....	432,526	206,549	188,563	28,821
1925.....	615,512	279,534	293,780	44,406

第三表 電氣爐製鉄鐵

	佛蘭西	伊太利
1922.....	69,077	14,401
1923.....	78,284	15,704
1924.....	71,619	12,211
1925.....	40,506	24,500

## 獨逸經濟大臣と官業制限 (海外鐵鋼情報 第二號) (伯林 1927 年 6 月 21 日電報通信) 獨逸鐵業新聞

(ドイツエ・ベルクウエルク・ツァイツング) 1927 年 6 月 22 日版抄譯) 獨逸帝國議會經濟委員會に於て、バイエルン國民黨より提出せる、國家並に之に従屬する公共團體の經濟的企業は、一般公共的生活必需品生産を別とし其以外は凡て絶對的最小限度に制限すべしとの建議に關し、經濟大臣クルチウス氏は次の如く辯明した、即、政府は是迄にも成るべく制限する主意を以て努めて居つたが、將來に於ても大體左様であらう政府は又委任命令に際し、職業法が手工業に與へた權利と自由とが動もすれば侵害さるゝ様な條件を定むべからずとの建議に對し經濟大臣は最近布かれた建築請負規程を見て貰ひたいとして同様な請負規程が、他の事業に對しても布かるゝであらうと述べた更に經濟大臣は議會に提

出されてをる政府事業の大綱と其の機能の範圍について言及し、次の如く述べてをる、即政府は決して無爲に過さぬであらう、政府は總括的な調査研究に對し、公の手の活動を促したい希望で、これがため既に獨逸資源局並に州政府と協議した、此の調査研究は未だ終了に至らぬ、その調査の結果は完了と共に直に委員會に報告せらるゝであらうと、尙經濟大臣は委員を幫助するため種々の資料を頒布する様に命じた。(鐵鋼協會)

**英國製鐵業の保護關稅要求** (海外鐵鋼情報第三號)(獨逸鐵業新聞トイツチエ・ベルグウエルク・ツァイツング) 1927年6月28日版抄譯) 最近英國鐵鋼協會は鐵鋼製品に對し輸入税を課すべき件につき審議を得べく政府に要望した、會長ベンジャミントルボット氏は、保護關稅を要求する理由として、左の如く述べた、即、英國市場に於て、歐大陸製鐵業者が常に下値を提供するため、英國鐵鋼業は利益を得ること不可能となつた、銑鐵價格は最近數次の低落を経て、今や殆んど實費に等しきものとなつた。尤も5月には鐵鋼材輸入の35萬6,000 匁に對し、輸出は42萬2,000 匁に達しては居るが、茲に大に憂慮すべきは、炭坑罷業終熄以來4月になつて、初めて作業中の熔鑄爐數が減少し初めたといふ事實である。是によつて歐大陸の壓迫が如何に顯著であるかを見ることが出来る。云々。(鐵鋼協會)

**輸入鋼材は減少の機運** 最近内地鋼材需要傾向が從來の外注中心主義から離れ内主外從的になつて來たのは著しく目につくが八幡製鐵所では本年を境として外注漸減の機運ありとし積極的増産計畫に力を集中しようとしてゐる、昨年は鋼材輸入増大、ことに3月は最近における最大記録を示し大陸製鋼カルテルに由來する思惑から本年1月以降輸入高激増して3月にいたり最高の數字を示したがこれとても前年に比較してよほどの安値で關稅引上を見越しての輸入が振はなかつたのを證據立てゝゐる。本年1月以降主要鋼材13港輸入數量は(單位匁)

1月 59,685 2月 67,019 3月 67,217 4月 63,735 5月 60,065

で必然的に外注をまたなくてはならぬ大條型物が多量を占めてゐるこの輸入減少の理由は

(1) 關稅率引上げの實現が疑問視されたこと (2) 昨年の關稅思惑の失敗を警戒したこと (3) 内地メーカーの態度の相違などである。

製鐵所の觀測では昨年の輸入鋼材 65 萬匁に對し本年は 40 萬匁を割るものといはれことに最近發表した製鐵所の鋼材定期契約の成立は有效な外注牽制となつてゐる製鐵所製品 18萬6,000 匁は大口の三菱、三井、岩井、安宅の四軒で引うけることになり、しかも價格は外國相場に追從してゐる製鐵所先物相場より1圓乃至3圓引のためたえず外注より安値で購入することができ從來のやうな思惑外注の必要のなくなつたことゝ引受匁數はこれを消化する必要があるなどに理由し一方内地鋼材の増産とまつて外注は漸減の機運を辿り若干景氣の反撥あるとも大して外注にまつ必要がなくなつたわけである。100 lb レールの注文激増鐵道省の 100 lb レール計畫と共に滿鐵、朝鮮兩鐵道をはじめ民間電軌會社で採用するもの續出し滿鐵の大連奉天間、朝鮮鐵道の釜山新義州間、および京濱電鐵、京阪電鐵、阪和電鐵、南海電鐵、阪神電鐵など一部分に使用したほか目下使用計畫をたて本月に入りて八幡

製鐵所へ注文殺到の状態であり、アメリカのテンネツシー會社、ドイツのコルメター會社の製品を輸入してゐたのが品質が内地品の方がすぐれ一方價格もかへつて安價なので阪和電鐵の80哩分を筆頭に輸送力の増加と事故防止から注文多く製鐵所では有卦に入り2年度において重軌條10萬廻生産の豫定を従來軌條工場の一部で他の大型物壓延をやつてゐたのを廢し12萬廻に増産することにし明年度においては100 lb レールの好調にかんがみ15萬8,000 廻のレール増産計畫を立て目下10萬廻を鐵道省の新設改良用に5萬8,000廻を民間の三菱、三井をはじめ直接注文にまつことになり目下折衝中でこの傾向から見て2年後にはレールの國內自給の實現を見るといはれてゐる。(八幡發) (大 毎)

**久慈の砂鐵製煉事業** 同所砂鐵製煉事業の成績に對しては商工省では非常の注意を拂ひさきに鑛山局より技師を派してその事業進捗狀況を視察せしめたが最近50廻爐一基に火入れを爲し愈々製煉に著手したといふので再び大橋技師を派遣して視察せしめる處あつたがその報告に依れば同所のスポンヂ鐵製煉法に依り最近製出し得たるスポンヂ鐵は鐵分80%以下であつて、この儘を普通の平爐に用ゐるスクラップ代用品として使用することは生産費を別としても甚だ困難である、作業上尙改善を要する點もあり更に今後製品の100分率を引上げ得らるゝ見込もあるから今遽かに事業の失敗を豫想することは早計であるが今日の處ではまだ樂觀を許さず。

**英國 6 月中の鐵鋼生産減少** 英國鐵鋼聯合會の調査によれば6月中の英國銑鐵及び鋼塊生産高は下の通りである(單位噸)。

	銑 鐵	鋼塊及鑄鋼
6 月 中	651,000	747,000
6 ヶ 月 間 累 計	3,728,600	4,986,700
昨 年 同 期 累 計	2,273,700	2,869,500
一 昨 年 同 期 累 計	3,379,100	3,776,700

これを前月に比すれば銑鐵6萬9,100 噸、鋼塊及鑄鋼13萬5,500 噸の各減少を來した。

**八幡製鐵所銑鋼生産高**

	生 産 高		本 年 累 計		前 月 比 較	
	五月中	六月中	五月迄	六月迄	四月對五月	五月對六月
銑 鐵	63,870噸	58,298噸	304,096噸	362,394噸	+1,576噸	-5,572噸
鋼 塊	93,486	84,756	446,609	531,365	+2,848	-8,730
鋼 材	62,627	65,845	314,792	380,637	-1,031	+3,218

**銑鐵市場在庫月報**

昭和 2 年 4 月 30 日現在 三菱商事株式會社金屬部

市 場	持 主 別			合 計	前 月 比 較
	生産筋	問屋筋	消費筋		
東 京	5,301	3,632	4,738	13,679	+2,215
横 濱	—	—	3,470	3,470	+ 140
名 古 屋	1,873	4,070	1,790	7,735	+ 635

大神門長函室兼大合前月比較	阪戶司崎館蘭石浦連計	3,910 1,261 — — 17,797 5,968 22,636 27,800 86,156 +10,567	22,400 500 50 — 50 — — 140 30,842 -10,407	16,350 40,130 3,840 440 190 — — 510 71,458 + 2,133	82,990 5,151 440 240 17,797 5,968 22,636 28,450 188,456 + 2,293	+1,481 — +2,837 + 380 + 20 -1,613 +1,473 -6,955 +1,680 — —
備考 前年度同月		72,481	27,250	72,855	172,586	

銑鐵市場在荷品種別表

昭和 2 年 4 月 30 日現在 三菱商事株式會社金屬部

品種	京濱	名古屋	阪神	九州	滿鮮	北海道	其他	合計
兼二浦	5,127	1,440	6,760	411	22,696	—	—	36,434 (-4,670)
釜石	289	210	900	—	—	—	5,968	7,367 (+144)
輪西	4,865	4,075	8,050	240	—	17,897	—	35,127 (+3,912)
漢陽	—	—	50	—	—	—	—	50 (-70)
鞍山	1,455	950	4,050	310	22,925	—	—	29,690 (+1,3)
本溪湖	910	520	28,350	920	5,355	—	—	36,055 (+110)
仙人	8	—	—	—	—	—	—	8 (-2)
揚子銑	—	—	1,500	—	—	—	—	1,500 (+1,100)
Cleveland	100	80	—	—	—	—	—	180 (+30)
Hematite	—	—	800	—	—	—	—	800 (+700)
Burn.	1,320	160	5,100	3,290	30	—	—	9,900 (+3,560)
Swedish	—	—	50	—	—	—	—	50 (± 0)
Bengal	300	—	2,950	—	—	—	—	3250 (+90)
Tata	405	—	19,500	330	—	—	—	20,235 (-3,810)
雜	2,370	—	4,830	90	80	140	—	7,810 (-200)
合計	17,149	7,735	82,890	5,591	51,086	18,037	5,968	188,456
	+ 2,355	+ 635	+ 1,481	+ 3,217	- 5,275	- 1,593	+ 1,473	+ 2,293